



開校 36 周年

# 三小だより

令和 8 年 1 月 30 日 発行

< 2 月号 >

江戸川区立南葛西第三小学校

校長 佐久間 貴広

## 一秒の言葉

副校長 阿部 貴広

早いもので年が明けてひと月が過ぎてしまいました。「1月はいく」そして「にげる」と言われる2月に入ります。1月は連休明けに5年生がウインタースクールとして2泊3日で新潟県南魚沼市へ行ってまいりました。5年生の子供たちは初めての宿泊を伴う共同生活の中で、より一層その絆を深め、6年生への自覚と仲間意識を高めてくれたことと思います。

さて、以下は40年近く前にラジオのCMの中で引用され、その後のテレビで放送された際には幻のCMとして話題になり、10年ほど前にはリメイク版CMで再登場して非常に反響を呼んだ詩です。また、一昔前の道徳授業で引用されることもありました。

「」の中には、以下のいずれかの言葉が入ります。考えてみてください。

『一秒の言葉』 小泉 吉宏

「」この一秒ほどの短い言葉に、一生のときめきを感じることもある。

「」この一秒ほどの短い言葉に、人のやさしさを知ることがある。

「」この一秒ほどの短い言葉に、勇気がよみがえってくることがある。

「」この一秒ほどの短い言葉に、幸せにあふれることがある。

「」この一秒ほどの短い言葉に、人の弱さを見ることがある。

「」この一秒ほどの短い言葉に、一生の別れになることがある。

一秒に喜び、一秒に泣く、一所懸命、一秒。人は生きる。

言葉は古来「言霊（ことだま）」と言われ、不思議な力が宿っているとされてきました。人の口から発せられた言葉は、そのまま現実化すると信じられていたのです。よって古来より日本人は言葉を大切にしてきました。冠婚葬祭で避けるべき言葉があるというのも日本独特の風習であり、言葉を場に合わせて選んで使うという独自の言語文化が芽生えたのは言うまでもありません。そして、言葉を大切にしてきたからこそ、世界に類を見ない繊細かつ豊かな文化が育まれてきたのでしょう。子供たちには日本語の素晴らしさを感じて学ぶのと同時に、日々の使い方を大切にしていってほしいと願っています。

友達との関係の中で、これらたった一秒の言葉をどれだけ伝え、周りの人とつながることができたでしょうか。これからも「一秒の言葉」に込める気持ち、「一つの言葉」に込める意味を感じ取ることができる感性豊かな子供たちを育てていかなければと思っています。

## 【席書会】

書写担当 須貝 恒希

1月の学期初めに席書会を行いました。1、2年生は各教室で、3～6年生は学年ごとに体育館で実施しました。1、2年生は硬筆、3年生以上は毛筆です。3年生は「お正月」、4年生は「元気な子」、5年生は「希望の朝」、6年生は「夢の実現」が課題でした。

BGMを聴きながら落ち着いた雰囲気、各学年で指定された文字を書きました。どの児童も、手本をよく見て丁寧に取り組み、とめ・はね・はらいや漢字と平仮名の大きさの違い、文字のバランスに注意して書くことができました。



## 【2月7日（土）学校公開「道徳授業地区公開講座」のお知らせ】

道徳担当 小嶋 佑

今年度、最後の学校公開では3時間の授業公開を行います。そのうち1時間は、「特別の教科 道徳」の授業公開を実施します。

小学校では、年間35時間の道徳の授業を行っています。道徳授業地区公開講座は、地域教材の開発や活用に向けて、家庭や地域の人々に参加や協力を得たり、家庭や地域社会との共通理解を深めたりすること目的として行っています。

お忙しい中とは思いますが、子供たちが道徳の学習の取り組む様子を御覧いただき、授業の感想や御意見をいただけたらと思います。よろしくお願いします。

## 【ウインタースクール】

5年担任 戸邊 俊一

5年生は、1月13日～15日に新潟県南魚沼市にウインタースクールに行きました。親元を離れ、子供たちだけで過ごした2泊3日は、これまで経験したことのないことばかりで、全ての時間がかけがえのない思い出と子供たち自身の学びにつながったと思います。

「よく見て聞いて味わって、嗅いで触って五感フル活用で楽しもう！」を合言葉に、雪に触れ、スキーを滑り、おいしいお米を食べて、物作りをし、きれいな空気の中で生活しました。普段できない体験の中で学びを深め、楽しさを実感できたのではないのでしょうか。友達との共同生活を通して、それぞれの役割を果たそうとするだけでなく、互いに声を掛け合い助け合う姿が見られました。様々な面で子供たちの成長を感じることができる良い宿泊学習となりました。

